

令和 8 年度

林業普及指導員資格試験

試験問題及び解答

【林業一般区分・地域森林総合監理区分 共通】

一般基礎・択一式	．．．． 1～11 ページ
専門・択一式（森林経営）	．．．． 12～17 ページ
専門・択一式（施業技術）	．．．． 18～23 ページ
専門・択一式（林産）	．．．． 24～29 ページ
専門・小論文式	．．．． 30～36 ページ
解答（小論式を除く）	．．．． 37～40 ページ

【地域森林総合監理区分】

総合専門（適性）・択一式	．．．． 41～44 ページ
総合専門（課題解決）・択一式	．．．． 45～52 ページ
総合専門（課題解決）・記述式	．．．． 53～54 ページ
解答（記述式を除く）	．．．． 55～56 ページ

問1 以下の文は、我が国の森林の状況と多面的機能について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

我が国の森林面積はほぼ横ばいで推移しており、令和4(2022)年3月末時点で2,502万haであり、国土面積3,780万haのうち約3分の2が森林となっている。我が国の森林面積の約〔 ① 〕割は人工林である。終戦直後や高度経済成長期に造林されたものが多く、その約6割が50年生を超え、本格的な利用期を迎えている。所有形態別にみると、森林面積の〔 ② 〕%が私有林となっている。

我が国の森林は、様々な働きを通じて国民生活の安定向上と国民経済の健全な発展に寄与しており、これらの働きは「森林の有する多面的機能」と呼ばれている。具体的には、水源涵養機能、山地災害防止機能・土壌保全機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、生物多様性保全機能、地球環境保全機能からなる公益的機能と、木材等生産機能がある。

例えば、〔 ③ 〕とは、樹冠や下草、落葉等が土壌を雨滴から保護することで侵食を防ぎ、樹木の根が土砂や岩石を固定することで土砂の流出や崩壊を防ぐ機能のことである。また、〔 ④ 〕とは、安らぎや癒し、行楽、スポーツの場を提供する機能のことである。

内閣府が令和5(2023)年に実施した「森林と生活に関する世論調査」において、森林の有する多面的機能のうち森林に期待する働きについて尋ねたところ、上位から順に、〔 ⑤ 〕、山地災害防止、水源涵養と回答した者の割合が多かった。

ア：2 イ：4 ウ：6 エ：8 オ：12

カ：25 キ：39 ク：57 ケ：水源涵養機能

コ：山地災害防止機能・土壌保全機能 サ：快適環境形成機能

シ：保健・レクリエーション機能 ス：文化機能 セ：木材生産

ソ：野生動植物生息の場 タ：地球温暖化防止

問2 以下の文は、林地開発許可制度について記述したものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

保安林に指定されていない民有林において、工場・事業場用地や農用地の造成、土石の採掘等の一定規模を超える開発を行う場合は、「森林法」に基づき、〔 ① 〕の許可が必要とされている。令和6(2024)年度には、978ha(169件)について林地開発の許可が行われた。このうち、工場・事業場用地及び農用地の造成が438ha(85件)、土石の採掘が367ha(39件)となっている。

再生可能エネルギー推進の手段として期待される〔 ② 〕設備の設置について、近年、森林内での設置事例が多数みられ、災害発生等の懸念があることから、森林の公益的機能の発揮と調和した〔 ② 〕設備の適正な導入を図ることが重要な課題となっている。このため、林野庁では、〔 ② 〕設備の特殊性を踏まえ、令和元(2019)年に開発行為の許可基準の整備等を行った。令和4(2022)年には、この許可基準の運用状況や小規模な林地開発の検証・分析等を行い、その結果を踏まえ、〔 ② 〕設備の設置に係る林地開発については、規制対象となる開発面積の規模を令和5(2023)年4月から〔 ③ 〕に引き下げたほか、開発行為全般に関しても、開発行為の一体性を判断するための目安や、より強い雨量強度に対応できる防災施設の基準を示すなど、森林の公益的機能の確保に向けた見直しを行った。

一方で、〔 ② 〕設備の設置については、一部において許可条件に違反する開発行為も発生しており、災害等の発生を十分に防止できていないなどの課題もあることから、令和7(2025)年5月に成立した「〔 ④ 〕」により、令和8(2026)年4月から許可条件違反に対する罰則や命令違反者の〔 ⑤ 〕に係る仕組みを新設した。

ア：特定 イ：宅地造成及び特定盛土等規制法 ウ：都道府県知事
エ：バイオマス発電 オ：災害対策基本法等の一部を改正する法律 カ：太陽光発電
キ：1ha超から0.5ha超 ク：監視 ケ：10ha超から1ha超 コ：水力発電
サ：森林経営管理法及び森林法の一部を改正する法律 シ：市町村長 ス：公表
セ：5ha超から1ha超 ソ：森林所有者

問3 以下の各文は、我が国の森林利用に関わる生物多様性の保全と資源の循環利用について、記述したものである。説明文のうち、正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 「生物多様性国家戦略 2023-2030」では、生物多様性の直接的な損失要因について4つの危機に整理している。そのうちの第2の危機とは、里地里山や二次草原などの過剰な利用が生物種を減らし、またその回復可能性を減少させることを指す。農林業によって維持される薪炭林や農用林、また採草地等では、暗い環境に依存する種などの生育・生息環境が失われることによる生物多様性の減少が懸念されている。
- ② 令和12(2030)年までに陸と海のそれぞれ少なくとも30%を保全することを目指す「30by30目標」を達成するため、我が国では、国立公園等の保護地域に加えて、企業の社有林や水源林など、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定する仕組みを開始した。こうした地域については、OECM(保護地域以外で生物多様性の保全に資する地域)としての登録が進められている。
- ③ 建築資材の中で木材は、解体及び再利用時の二酸化炭素排出量(ライフサイクルカーボン)が少ないため、鉄やコンクリートを用いるより、建設から解体に至るまでの排出(オペレーショナルカーボン)の削減に貢献する。また、木材は森林が固定した炭素を長期的に貯蔵すると共に、化石燃料を代替するエネルギー源ともなる。木材の特性を活かした森林資源の循環利用によって、持続可能な社会の実現を図ることが求められている。
- ④ 生物多様性とは、全ての生物の間に違いがあることであり、「生物多様性基本法」では「様々な生態系が存在すること並びに生物の種間及び種内に様々な差異が存在すること」と定義されている。これは、環境によって形成される森林や河川など、いろいろなタイプの生態系がそれぞれの地域にあることを指す「生態系の多様性」、多様な動植物や菌類等が生息・生育する「種の多様性」、そして同じ種であっても個体間や個体群間に遺伝的な差異がある「遺伝子の多様性」の3つのレベルがあることを指している。
- ⑤ 林野庁は、循環利用を図るべき森林を明らかにするため、市町村森林整備計画において、林地生産力が比較的高く車道や集落からの距離が近いなど、自然的・社会的条件が良好であり、かつ一体性を認められる区域について、「特に効率的な施業が可能な森林の区域」として設定することを推進している。同区域の令和6(2024)年度末時点での設定面積は109万haになる。

問4 以下の各文の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号(カタカナ)を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) いわゆる「松くい虫被害」はマツ材線虫病によって起こる。その病原体は、マツノザイセンチュウという線虫であり、マツノマダラカミキリ等に運ばれてマツ類の樹体内に侵入して木を枯らす。この線虫の成虫の体長は約〔 ① 〕である。

ア：1 nm イ：1 μ m ウ：1 mm エ：1 cm

- (2) 「ナラ枯れ」は、ナラ菌が〔 ② 〕によってナラ類やシイ・カシ類の樹体内に持ち込まれ樹木を枯死させるナラ・カシ類^{いちょう}萎凋病である。〔 ② 〕を含むせん孔虫類は、「森林病虫害等防除法」及び「森林病虫害等防除法施行令」により、森林病虫害等に指定されている。

ア：マツノマダラカミキリ イ：カシノナガキクイムシ ウ：ヤツバキクイムシ
エ：コクワガタ

- (3) 輸出入植物及び国内植物を検疫し、並びに植物に有害な動植物の発生を予防し、これを駆除し、及びまん延を防止し、もって農業生産の安全及び助長を図ることを目的に制定された法律は〔 ③ 〕である。

ア：農薬取締法 イ：関税法 ウ：外為法(外国為替及び外国貿易法)
エ：森林病虫害等防除法 オ：植物防疫法

- (4) 各地で、ニホンジカの増加により希少植物種の消失や〔 ④ 〕の増加といった現象が発生することで、地域の生物多様性の低下が危惧されている。

ア：シカ不嗜好性植物 イ：ササ類 ウ：ノネズミ エ：ツキノワグマ
オ：ニホンカモシカ

- (5) 〔 ⑤ 〕は本州以南に分布するが、九州では絶滅したとされている。本種による林業被害は、主に直径20cm以上の木で発生することが報告されており経済的な損失は大きい。

ア：ツキノワグマ イ：ヒグマ ウ：ノウサギ エ：ムササビ
オ：ニホンカモシカ

問5 以下の各文は林業機械の作業機（アタッチメント）について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

車両系機械の作業機（アタッチメント）のうち、材木をつかみ上げて運ぶ〔 ① 〕にチェーンソーを装着して鋸断機能を加えたものが〔 ② 〕である。〔 ② 〕の機能に、枝払い機能と測尺機能、立木を伐倒するための機体起こし機能を追加したものは〔 ③ 〕、〔 ② 〕の機能に機体起こし機能を加えたものは〔 ④ 〕である。日本には令和6（2024）年度時点で2,272 台の〔 ③ 〕が導入されているが、〔 ③ 〕であっても実際の現場では伐倒はチェーンソーで行い、残りの作業を道路上や土場で行う場合が多く、実態としては〔 ⑤ 〕の役割を果たしているものも多い。

ア：グラップルローダ イ：グラップルソー ウ：スイングヤーダ
エ：スキッダ オ：スラッシャ カ：タワーヤーダ
キ：ディスクソー ク：デリマ ケ：ハーベスタ
コ：フェラーバンチャ サ：フォワーダ シ：フレールモア
ス：プロセッサ セ：油圧シアー ソ：ロータリーカッタ

問6 以下の各文の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を回答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) 木材の主成分の一つであるセルロースを構成する単糖の〔 ① 〕は、光合成で産出される化合物である。〔 ① 〕の生成には、光合成による二酸化炭素の固定と光エネルギーの固定の2つの側面があり、生命活動の根幹をなす。

ア：リグニン イ：D-グルコース ウ：ペクチン エ：デンプン オ：タンニン

- (2) 合板は隣り合う単板の繊維方向を直交させていることから、〔 ② 〕が小さく、寸法安定性が高い。単板の積層数を増やせば、〔 ② 〕はさらに緩和され、寸法安定性は向上する。

ア：異方性 イ：耐火性 ウ：耐久性 エ：調湿性 オ：意匠性

- (3) 耐震性や省エネルギー性能の向上などの住宅におけるニーズの変化を背景に、住宅に用いられる木材製品には、寸法安定性や強度等の品質・性能が一層求められている。この結果、建築用の製材品では、寸法安定性の高い〔 ③ 〕の割合が上昇している。

ア：広葉樹材 イ：外材 ウ：国産材 エ：KD材 オ：グリーン材

- (4) 人工林が本格的な利用期を迎える中、〔 ④ 〕の利用拡大が重要となっている。近年では、国内の製材機械メーカーにおいて機械の改良・開発が進められており、製材工場では効率的な木取りを自動でできる〔 ④ 〕用の製造ラインが導入され始めている。

ア：集成材 イ：大径材 ウ：小径材 エ：木材チップ オ：輸入材

- (5) 令和6（2024）年度に着工された公共建築物の木造率（床面積ベース）は、約16%となった。そのうち、低層（3階建て以下）の公共建築物の木造率は約〔 ⑤ 〕であり、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が制定された平成22（2010）年から10ポイント以上上昇している。

ア：13% イ：23% ウ：33% エ：43% オ：53%

問7 以下の文は、我が国のきのこ類の生産に関する記述である。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。なお、データは令和6年特用林産物生産統計調査及び令和6年林業産出額による。

令和6（2024）年の我が国の林業産出額のうち栽培きのこ類生産は約〔 ① 〕割を占め、約〔 ② 〕億円となっている。品目別の産出額は、〔 ③ 〕、生しいたけ、〔 ④ 〕の順に多く、生産量については、〔 ⑤ 〕及び〔 ③ 〕は約12万トンとなっており、次いで生しいたけ及び〔 ④ 〕が約6万トンとなっている。

ア：2	イ：4	ウ：6	エ：5,700	オ：3,300	カ：2,300
キ：乾しいたけ	ク：なめこ	ケ：えのきたけ	コ：ぶなしめじ		
サ：まいたけ	シ：エリンギ	ス：ひらたけ			

問8 以下の文は、「林業普及指導運営方針」（令和4（2022）年3月に制定）の「5 林業普及指導員の資質の向上に関する基本的事項」を記載したものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を、下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

5 林業普及指導員の資質の向上に関する基本的事項

林業普及指導事業において、高度で幅広い技術・知識及び経験に基づく〔 ① 〕な視点に立った普及指導活動を適切に行えるよう、林業普及指導員に必要な専門的技術・知識や普及指導能力、関係者との〔 ② 〕能力等についての資質向上を図る。

(1) 研修の実施

ア 国の役割

林野庁は、林業普及指導員の資質の向上を図るため、ICT等技術革新に対応した研修や行政ニーズに対応した研修等を実施する。また、森林総合監理士を目指す職員の資質の向上を目的とした研修及び森林総合監理士の〔 ③ 〕を実施し、技術・知識の習得を促進する。

イ 都道府県の役割

都道府県は、林業普及指導員及び森林総合監理士の役割・目的意識の醸成や担当分野に関する基本的な技術・知識等、実践的な指導能力の向上に関する研修を実施する。また、林野庁が実施する研修に経験年数、専門分野、知識の習得状況、地域の課題等を勘案し積極的に参加させるとともに、林業普及指導員及び森林総合監理士には日々〔 ④ 〕に努めさせ、技術・知識の向上を図る。

なお、林業一般合格者の林業普及指導員については、計画的に国が行う研修等を受講させ、森林総合監理士の登録をさせるよう努める。

(2) 人事交流等の推進

林業普及指導事業の実施にあたっては、森林・林業行政とのより一層緊密な連携や、高度化かつ多様化した技術・知識が求められていることから、試験研究機関や関係行政部局との幅広い人事交流を推進する。また、地域の森林の整備・保全や林業の成長産業化に向けた構想の実現に必要な〔 ⑤ 〕を向上するため、森林管理署等との人事交流や市町村、林業経営体への出向、都道府県有林業務等における現場での実務経験の充実に努める。

ア：機運醸成	イ：総合的	ウ：確実な業務遂行
エ：技術	オ：現場指導能力	カ：客観的
キ：情報伝達	ク：継続教育	ケ：現場の巡回
コ：社会教育	サ：合意形成	シ：政策的
ス：生涯学習	セ：知識	ソ：自己研鑽

問 9 次の枠内の文は、林業普及指導推進要綱（制定平成 17 年・最終改正平成 24 年）の抜粋である。文中の〔 〕に関する以下の各問いに答えなさい。

第 2 普及指導の対象者

林業普及指導事業における普及指導の対象者は、〔 ① 〕。

第 3 林業普及指導運営方針

1 林業普及指導運営方針の作成

林野庁長官は、都道府県の林業普及指導事業の全国的水準を確保するため、おおむね 5 年ごとに、林業普及指導運営方針（以下「運営方針」という。）を定めるものとする。

2 運営方針の内容

運営方針には、次に掲げる事項を定めるものとする。

〔 ② 〕

第 4 〔 ③ 〕

1 〔 ③ 〕の作成

知事は、運営方針を基本として、おおむね 5 年ごとに、〔 ③ 〕を定めるものとする。

3 実施方針に関する意見の聴取

知事は、実施方針を定め、又は変更しようとするときは、必要に応じ、あらかじめ、〔 ④ 〕等の意見を聴くものとする。

第 7 林業普及指導員

1 林業普及指導員の職務

林業普及指導員は、次に掲げる職務を行うものとする。

〔 ⑤ 〕

1 文中の〔 ① 〕について、林業普及指導推進要綱に明示されていないものを、次のア～オの中から選び、解答用紙の該当欄に記入しなさい。

ア：森林ボランティア初心者 イ：林業を行う者の後継者
ウ：市町村 エ：林業を行う者 オ：森林所有者の後継者

2 文中の〔 ② 〕には、運営方針の内容として定める事項が示されており、その一つとして林業普及指導員の配置に関する基本的事項が記載されている。この記載を受けて運

営方針で示されている林業普及指導組織の中核的役割を担う者の名称として正しいものを次のア～オの中から選び、解答用紙の該当欄に記入しなさい。

ア：林業改良普及員 イ：林業革新支援専門員 ウ：林業経営指導員
エ：林業専門技術普及員 オ：地域林政アドバイザー

3 文中の〔 ③ 〕に当てはまる語句を次のア～オの中から選び、解答用紙の該当欄に記入しなさい。

ア：森林経営計画 イ：林業普及指導事業実施計画 ウ：市町村森林整備計画
エ：林業普及指導実施方針 オ：森林・林業基本方針

4 文中の〔 ④ 〕について、林業普及指導推進要綱に明示されているものを次のア～オの中から選び、解答用紙の該当欄に記入しなさい。

ア：農林水産大臣 イ：市町村長 ウ：学識経験者 エ：林野庁長官
オ：森林所有者

5 文中の〔 ⑤ 〕には、7項目が掲げられている。以下のア～オの職務のうち、内容に誤りがあるものを一つ選び、解答用紙の該当欄に記入しなさい。

ア：林業試験研究機関との情報交換、地域の実態に適合した森林・林業に関する技術の開発及び技術体系の確立
イ：森林所有者等から提出された森林経営計画の認定
ウ：普及指導の対象者の実態及び要請等の各種情報の収集整理
エ：普及指導の対象者の組織化
オ：都道府県の他の行政部門に対する森林・林業に関する技術及び知識についての指導助言並びに連絡調整

問 10 以下の説明文は法律の規定について記述したものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

1 「森林法」第 187 条第 2 項において、林業普及指導員は、次に掲げる事務を行うこととされている。

- (1) 試験研究機関と密接な連絡を保ち、専門の事項について〔 ① 〕を行うこと。
- (2) 森林所有者その他林業を行う者又は林業に従事する者に〔 ② 〕林業に関する技術及び知識を普及すること。
- (3) 森林の施業に関する指導を行うこと。
- (4) 「森林法」第 10 条の 12 の規定による市町村の求めに応じて行う協力のうち専門的な技術及び知識を必要とする事項に係るものを行うこと。

2 上記 1 (4) の「森林法」第 10 条の 12 において規定されている、市町村が求めることができる協力とは〔 ③ 〕の作成及びその達成に関する協力である。

3 「森林・林業基本法」第 14 条において、「国は、森林、林業並びに林産物の流通及び加工に関する技術の研究開発及び普及の効果的な推進を図るため、これらの技術の研究開発の〔 ④ 〕の明確化、国、独立行政法人、都道府県及び地方独立行政法人の試験研究機関、大学、民間等の連携の強化、地域の特性に応じた森林及び林業に関する技術の普及事業の推進その他必要な施策を講ずるものとする。」とされており、また、同法第 20 条において、「国は、効率的かつ安定的な林業経営を担うべき人材の育成及び確保を図るため、〔 ⑤ 〕、研究及び普及の事業の充実その他必要な施策を講ずるものとする。」とされている。

ア：全体像 イ：接して ウ：研修 エ：森林経営計画 オ：目標
カ：啓発 キ：森林整備協定 ク：情報収集 ケ：現状 コ：通信機器により
サ：教育 シ：調査研究 ス：森林組合を通じて セ：普及
ソ：市町村森林整備計画

分野： **森 林 経 営**

問1 以下の文は、森林経営計画制度について要約したものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

森林経営計画とは、「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する〔 ① 〕を1期とする計画である。これは、〔 ② 〕に基づく制度である。

森林経営計画制度では、森林の経営を自ら行う森林所有者又は森林の経営の委託を受けた者は、林班又は隣接する複数林班の面積の〔 ③ 〕以上の森林を対象とする場合（林班計画）や、市町村長が定める一定区域において〔 ④ 〕以上の森林を対象とする場合（区域計画）、所有する森林の面積が〔 ⑤ 〕以上の場合（属人計画）に、自ら経営する森林について森林の施業及び保護の実施に関する事項等を内容とする森林経営計画を作成し、市町村長の認定を受けることができる。

ア：3年 イ：5年 ウ：10年 エ：15年 オ：森林・林業基本法
カ：森林法 キ：森林経営管理法 ク：森林組合法 ケ：2分の1
コ：3分の1 サ：5分の1 シ：10分の1 ス：1 ha セ：5 ha
ソ：10 ha タ：30 ha チ：100 ha ツ：200 ha テ：300 ha ト：500 ha

問2 以下の文は、我が国の木材自給率および輸出入の動向について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

我が国の木材自給率は、国産材供給の減少等により低下を続け、平成 14(2002)年には 18.8%となった。その後は、人工林資源の充実や技術革新等による国産材利用の増加等を背景に上昇傾向で推移している。令和 6(2024)年は、木材需要量の増加割合に比べて国産材供給量の増加割合が小さかったため、木材自給率は前年より 0.4 ポイント低下して〔 ① 〕となった。自給率を用途別にみると、〔 ② 〕は 16.0% となっており、他用途に比べれば低くなっている。

我が国の木材輸入量(丸太換算値)は、〔 ③ 〕年の 9,045 万 m³をピークに減少傾向にあり、令和 6(2024)年の木材輸入量は、丸太は減少したものの木材製品及び燃料材がともに増加した結果、前年比 3.2%増の 4,707 万 m³となった。

我が国の木材輸出量は、増加傾向にある。令和 7(2025)年の木材輸出量は、丸太が 191 万 m³(前年比 5.1%増)、製材品が 20 万 m³(前年比 29.8%増)、合板等が 15 万 m³(前年比 35.0%増)となった。丸太については、その約 9 割が〔 ④ 〕へ輸出され、こん包材、土木用等に利用されている。また、米国へ輸出されている製材品については、主に〔 ⑤ 〕に利用されている。

- | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|--------|--------|
| ア：22.5% | イ：32.5% | ウ：42.5% | エ：燃料材 | オ：合板用材 |
| カ：パルプ・チップ用材 | キ：昭和 51(1976) | ク：平成 8(1996) | | |
| ケ：平成 28(2016) | コ：韓国 | サ：中国 | シ：ベトナム | |
| ス：フェンス材 | セ：内装材 | ソ：家具材 | | |

問 3 以下の文は、森林環境税及び森林環境譲与税について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

平成 31（2019）年 3 月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、森林環境税及び森林環境譲与税が創設された。

森林環境税は、令和 6（2024）年度から、個人住民税均等割の枠組みを用いて、国税として 1 人年額〔 ① 〕が賦課徴収されている。

森林環境譲与税は、令和元（2019）年度から、市町村と都道府県に対して、〔 ② 〕、林業就業者数及び人口による客観的な基準で按分^{あんぶん}して譲与されている。

市町村及び都道府県における森林環境譲与税の活用額は、令和元（2019）年度の譲与開始以降、〔 ③ 〕おり、令和 5（2023）年度は〔 ④ 〕となった。この令和 5（2023）年度の活用額を用途別にみると、〔 ⑤ 〕が最も多かった。

ア：1,000 円 イ：5,000 円 ウ：10,000 円

エ：市町村森林整備計画対象森林面積 オ：公有林面積 カ：私有林人工林面積

キ：減少を続けて ク：増加を続けて ケ：ほぼ横ばいで推移して

コ：96 億円 サ：270 億円 シ：464 億円

ス：市町村支援 セ：間伐等の森林整備関係 ソ：人材の育成・担い手の確保

タ：木材利用・普及啓発

問4 以下の文は、森林の水源涵養機能^{かん}について記述したものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

森林の水源涵養機能^{かん}については、土地利用形態、立木、下層植生、土壌、岩盤など多くの因子が関係しており、降水の遮断、土壌の浸透、土壌中への貯留等に影響を及ぼしている。

かつて日本の各地には、森林荒廃により裸地化したハゲ山が広がっていたが、その後の森林整備の進展により、斜面の被覆や土壌の回復が図られた結果、ピーク流出量は大きく〔 ① 〕し、災害の発生リスクは減少してきた。

また、森林は裸地と比較すると、降雨として流域にもたらされる水のうち、流域から流出する水量は小さくなる。これは、森林には樹冠遮断量や〔 ② 〕があるためである。一方で、森林斜面では、表面流による〔 ③ 〕流出が低減されるとともに、土壌侵食が抑制され土壌が保持されることなどから、降水が土壌中に浸透・貯留されやすくなり、水源涵養機能^{かん}が発揮される。

さらに、下層植生や土壌被覆の状態は、水の土壌への浸透や表面流の発生のしやすさにも大きく関係する。下層植生が発達すると、その根系により土壌中に多くの〔 ④ 〕が形成され、土壌の透水性や保水性が向上する。また、下層植生により地表が覆われることで、土壌表面への雨滴衝撃が緩和され、その結果、土壌の〔 ⑤ 〕の破壊が抑えられることから、水の浸透が促進されると考えられる。

このように、水源涵養機能^{かん}は、降水の遮断、水の蒸発散、土壌への浸透及び貯留、流出の抑制などの複数の過程が相互に関係することにより発揮されるものである。

ア：断層 イ：低減 ウ：蒸散量 エ：単粒構造 オ：基底流出量
カ：早い キ：不整合 ク：孔隙 ケ：増加 コ：遅い
サ：直接流出量 シ：団粒構造

問5 以下の文は、山地災害に対する森林の機能について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

山地における土砂災害（山地災害）は、地形、地質、土壌、植生などの素因に加え、降雨や地震などの誘因が組み合わさることで発生する。近年は、気候変動の影響により、誘因である台風や熱帯低気圧の大型化、〔 ① 〕の発生に伴う高強度の降雨の増加がみられ、長時間にわたる強雨による山地災害の激甚化が懸念されている。

山地災害のうち、山の斜面が崩壊する現象は斜面崩壊と呼ばれ、豪雨や地震、融雪、噴火、地形改変などを契機として発生する。斜面崩壊は、崩壊の深さや規模に応じて、〔 ② 〕と〔 ③ 〕の二つに分類される。このうち森林は、〔 ② 〕の発生を抑える機能を持つ。一方で、根系が届かない箇所が発生する〔 ③ 〕に対して、森林が直接的な抑制効果を及ぼすことは難しい。

森林の崩壊防止機能は、主に樹木の根系によって発揮される。代表的な働きとして第一に、地表付近に張り巡らされた〔 ④ 〕が土壌の移動を抑える「ネット効果」がある。第二に、地表から下方に伸びる直根が岩盤の割れ目などに到達し、樹木を支柱のように固定することで、地盤のせん断抵抗力を高め、崩壊に抵抗する「杭効果」がある。

森林伐採に伴い残された根（切り株）が腐朽すると、崩壊防止機能は段階的に低下する。このため、たとえ伐採後に新たな樹木を植栽しても、根系が十分に発達するまでの約〔 ⑤ 〕年間は、〔 ② 〕のリスクが高い状態が続くとされる。

ア：菌根	イ：フェーン現象	ウ：気根	エ：液状化
オ：表層崩壊	カ：地盤沈下	キ：30～40	ク：ガリー侵食
ケ：水平根	コ：土石流	サ：線状降水帯	シ：1～2
ス：ダウンバースト	セ：10～20	ソ：深層崩壊	

問6 以下の文は、森林の気象害について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

地表面付近の気温を低下させる要因は、寒気の流入、地形条件等による冷気の移流などさまざまであるが、地表面が上空から受け取る放射エネルギー（大気放射）よりも地表面から上空に向けて射出される放射エネルギーが上回ることにより、地表面付近の気温を低下させる気象現象が放射冷却である。放射冷却の発生しやすい気象条件として〔 ① 〕の夜間が典型的であり、そのような条件下では地表面の気温が低下しやすい。

樹木には耐凍性（細胞が凍結にどこまで耐えられるかという性質）があり、組織の細胞が耐凍性で耐えられる温度よりも低温にさらされると被害が発生する。例えば、スギ、ヒノキなどの幼齢木の根元付近は低温の被害を受けやすく、その場合、被害を受けた部分の皮層が剥離したり、患部の材に赤褐色の変色が発生したりすることがある。この材の変色した部位を〔 ② 〕という。また、樹木が春先に低温にさらされることによって発生する霜による被害の名称は〔 ③ 〕と呼ばれる。

また、寒冷な時期に発生する気象害として雪害がある。本州の太平洋側を中心に大雪を降らせる気象現象として、春先に日本の太平洋側を北東に進む〔 ④ 〕が知られている。最大積雪深の2ないし2.5倍以下の樹高の林木は、積雪によって湾曲して樹体全体が埋雪しやすい。埋雪された樹木は、積雪の沈降力や匍行力^{ほこうりょく}が作用して鉛直方向または斜面下方へ移動し、幹折れなどの被害が発生することがある。このような、埋雪された樹体が積雪の荷重に耐えられずに損傷を受ける被害で、雪害の一種に分類される被害の名称を〔 ⑤ 〕という。

ア：風が弱い雨天 イ：早霜害 ウ：冠雪害 エ：シベリア気団 オ：凍害
カ：凍傷痕 キ：風が弱く乾燥した晴天 ク：凍上痕 ケ：晩霜害
コ：風が強く湿った曇天 サ：アリューシャン低気圧 シ：凍結痕 ス：雪圧害
セ：南岸低気圧 ソ：雪崩害

問 1 以下の文は、林業種苗の生産について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターでは、収量の増大と造林・保育の効率化に向けて、林木育種によりエリートツリーの選抜が行われてきており、更に改良を進めるため、エリートツリー同士を交配した次世代の精英樹の開発も進められている。

農林水産省では「〔 ① 〕」に基づき、エリートツリー等のうち、「成長量が同様の環境下の対照個体と比較しておおむね 1.5 倍以上」、「材の剛性や幹の通直性に著しい欠点がない」、「雄花着生性が一般的なスギ・ヒノキのおおむね〔 ② 〕」等の基準を満たすものを特定母樹に指定しており、令和 7（2025）年 3 月末時点で、573 種類（うちエリートツリー 395 種類）となっている。林野庁では、特定母樹を増殖する事業者の認定や苗木を生産するための圃場の整備を推進している。

特定苗木とは、特定母樹の〔 ③ 〕から生産された苗木で、従来の苗木と比べ成長に優れており、造林・保育費用の削減とともに、〔 ④ 〕の向上も期待されることから、これらの苗木を積極的に用いた再造林を推進している。令和 5（2023）年度の特定苗木の生産本数は、スギが九州を中心とした 16 県で 546 万本、グイマツ（クリーンラーチ）が北海道で 71 万本、ヒノキが三重県など 5 県で 7 万本、合計 625 万本となっており、苗木生産量の約 1 割となっている。

農林水産省は、みどりの食料システム戦略において、特定苗木の活用を、令和 12（2030）年までに苗木生産量の 3 割、令和 32（2050）年までに〔 ⑤ 〕とする目標を設定している。

ア：森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等特措法）

イ：林業種苗法 ウ：森林・林業基本法 エ：8 割以上 オ：半分以下

カ：1 割未満 キ：種子 ク：穂木 ケ：種穂 コ：水源涵養機能

サ：二酸化炭素吸収量 シ：生物多様性保全機能 ス：5 割 セ：7 割

ソ：9 割

問2 以下の文は、「令和6年度森林及び林業の動向」において造林の省力化と低コスト化に向けた取組について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下
の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

再造林については、地拵え、植栽、下刈りといったそれぞれの作業における労働負荷や
〔 ① 〕を低減する技術の開発・実証が進められている。

林野庁では、これらの課題への対策として、伐採と並行又は連続して地拵えや植栽を行う
〔 ② 〕システムや、〔 ③ 〕、下刈りの省略等を推進している。

〔 ② 〕システムでは伐採と再造林のタイミングを合わせる必要があることから、春や
秋の植栽適期以外でも高い活着率が見込めるコンテナ苗の活用が有効である。

また、主要樹種における〔 ③ 〕の有効性については、令和4(2022)年に改訂した「ス
ギ・ヒノキ・カラマツにおける〔 ③ 〕のための技術指針」等で、これまでの実証実験の
成果等を取りまとめており、引き続き〔 ③ 〕の普及を行っていくこととしている。

下刈りについては、通常、植栽してから5～6年間は毎年実施されているが、〔 ④ 〕
に応じた下刈り回数の低減や、従来の全刈りから筋刈り、坪刈りへの変更などによる省力化
に加え、下刈り回数の低減が期待される〔 ⑤ 〕や特定苗木の導入を進めていく必要があ
る。また、特定苗木の導入により、伐期の短縮による育林費用回収期間の短縮も期待される。

ア：騒音 イ：CO₂排出量 ウ：自然災害リスク エ：コスト オ：架線集材
カ：一貫作業 キ：森林認証 ク：収穫予測 ケ：高密度植栽 コ：低密度植栽
サ：列状植栽 シ：群状植栽 ス：シカ被害率 セ：雑草木との競合状態
ソ：日平均気温 タ：除草剤散布量 チ：ポット苗 ツ：無花粉苗 テ：裸苗
ト：大苗

問3 以下の各文は、森林保護に関して述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) 森林や樹木の病虫害を引き起こすマツノザイセンチュウ、ソテツシロカイガラムシ、ケブカトラカミキリ、マイマイガのうち、国内外来種になっているのは〔 ① 〕種である。

ア：1 イ：2 ウ：3 エ：4

- (2) ナラ枯損とは、1980 年代以降に日本で問題となっているナラ類およびシイ・カシ類の集団的な枯損現象であり、「ナラ類集団枯損」「ナラ枯れ」などとも呼ばれる。ブナ属を除く日本のブナ科樹木のほとんどの種で枯死の報告がある。最も被害が顕著なのは〔 ② 〕と〔 ③ 〕であり、とりわけ〔 ② 〕が枯死しやすい。

ア：ウバメガシ イ：ミズナラ ウ：カシワ エ：スギ オ：アカガシ
カ：コナラ

- (3) 外来種とは、〔 ④ 〕によって本来の生息地域から、元々は生息していなかった地域に入り込んだ生物のことである。特に、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがある海外起源の外来生物のうち、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）に基づき指定されたものを特定外来生物という。

ア：人為 イ：鳥類 ウ：風 エ：動物

- (4) 国有林においては、原生的な森林生態系を有する森林や希少な野生生物の生育・生息の場等となる保護林や、保護林を中心としたネットワークを形成して野生生物の移動経路となる緑の回廊において、〔 ⑤ 〕を行うことで適切な生物多様性の保全が行われている。

ア：予察的な捕獲 イ：選択的な捕獲 ウ：モニタリング調査
エ：立ち入りの制限 オ：広葉樹林化

問 4 以下の各文は、森林や木材の被害、関連法令等について述べたものである。各文のうち正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 「森林病虫害等防除法」第 2 条第 1 項第 3 号の政令で定めるもの（森林病虫害等）は、
1. 樹木に付着してその生育を害するせん孔虫類、2. 松毛虫、3. まつばのたまばえ、
4. すぎたまばえ、5. まいまいが、6. すぎはだに、7. くりたまばち、8. のねずみ、9. からまつ先枯病菌である。
- ② カシノナガキクイムシ成虫が木から飛び立った後、雌成虫は適当な木に穿入孔を掘り始め、褐色の粉状の木屑（フラス）の排出と性フェロモンの放出をおこなう。その結果、雄成虫が誘引されて集中加害（マスアタック）が起きる。
- ③ マツ材線虫病（マツ枯れ）の病原体は日本在来種のマツノザイセンチュウであり、北米から侵入したマツノマダラカミキリが主なベクター（運び屋）としてマツノザイセンチュウを媒介し、被害が拡大する。
- ④ 野ネズミ類による林業被害は主に植栽木の枝葉や根、樹皮の採食であり、対策としては殺そ剤や忌避剤を利用した化学的防除がある。
- ⑤ 日本全国に広く分布するニホンカモシカは、植栽直後の若齢木の枝葉採食を行うため、積極的な駆除が行われている。

問5 以下の文は、労働安全衛生に関して記述している。正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 夏季の下刈り作業は熱中症の危険性があるため、熱中症の予兆があった場合の報告体制を整備し、応急処置・搬送先等を定めたマニュアルを作成した。朝礼の際に下請け作業を行なっている一人親方を含めた関係者に報告体制およびマニュアルについて、周知徹底させた。
- ② ハーベスタでの伐木作業にあたり、地形や伐倒する立木の形状等を事前に調査し、その調査結果を基に作業計画を作成した。現場では、作成した作業計画に基づいた指揮を作業指揮者が行った。
- ③ 大径木を伐採している同僚のチェーンソーが故障した。使用していない排気量約 60 cc の2サイクルエンジンのチェーンソーがあったことから、厚生労働大臣が定める規格を満たしていること、安全装置が十分備わっていること、安全装置が機能することを確認し、当該チェーンソーを同僚に譲渡した。
- ④ 集材機を用いて集材を行っていた現場において、新たに路網を作設した。今後は路網を活用し、伐倒木を木材グラップルで直接把持する集材方法に変更する予定である。山主から早急に作業を開始するよう指示があったため、危険性又は有害性等の調査、いわゆるリスクアセスメントは行わず、作業を開始した。
- ⑤ 間伐作業中にかかり木が発生した。風も吹いておらず、かかり木の樹高が 12m 程度と高いことから、かかり木にかかられている立木を伐倒した。

問 6 以下の文は、林内路網の整備について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句または数字を下の選択肢から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

日本の林内路網密度は令和 6（2024）年度末で〔 ① 〕m/ha となっているが、〔 ② 〕トン積以上のトラックが通行できる林道の整備は遅れている。木材流通コストの低減を図るためには、大型車両により効率的に木材を運搬することが重要であり、林道規程においても、設計車両をセミトレーラとするものが〔 ③ 〕自動車道として位置づけられている。

森林作業道は、林道や、林業専用道などの基幹路網を補完し林内道路網を形成する。林内路網の整備水準は、地形傾斜と使用する林業機械によって理想とする目標値が異なる。例えば、地形傾斜が 20 度の〔 ④ 〕では、車両系作業システムを使う場合、路網密度を〔 ⑤ 〕m/ha 以上にすることが路網整備水準の目安とされている。

ア：6 イ：8 ウ：10 エ：20 オ：19.4

カ：25.6 キ：44.2 ク：51.3 ケ：第 1 種 コ：1 級

サ：幹線 シ：緩傾斜地 ス：中傾斜地 セ：急傾斜地 ソ：35

タ：60 チ：85

問1 以下の文は、我が国の主な木造住宅建築工法と使用される材料について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) 木造軸組工法は、土台、柱、梁、桁材などにより架構を形成し、そこに〔 ① 〕などの面材料を張って床や壁、屋根を構成する工法である。
- (2) 桎組壁工法は、2×4インチを基本寸法とした〔 ② 〕を組み合わせる桎組を作り、そこに〔 ① 〕などの面材料を釘打ちしてパネルを作り、そのパネルで壁や床を構成して家を建てていく工法である。
- (3) 令和7（2025）年の木造の新設住宅着工戸数における工法別のシェアは、木造軸組工法の方が桎組壁工法よりも高く、桎組壁工法のシェアは約〔 ③ 〕割となっている。
- (4) 木造軸組工法の住宅を建築する大手住宅メーカーでは、寸法安定性の高い〔 ④ 〕を多く使用する傾向にあるが、柱材において輸入〔 ④ 〕からスギ〔 ④ 〕等への転換の動きがみられる。一方、〔 ⑤ 〕については、高い曲げヤング率や多様な寸法への対応が求められるため、引き続き輸入材が高いシェアを持つ状況にある。

ア：ディメンションランバー イ：集成材 ウ：LVL エ：合板
オ：横架材 カ：羽柄材 キ：2 ク：3

分野：

林	産
---	---

問2 以下の文は、製材加工における重要な要素である木取りについて述べたものである。
文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) 〔 ① 〕挽きは、一定幅の板製品等を生産するのに適しており、耳すり作業を減らすことができる。
- (2) 〔 ② 〕挽きは、〔 ② 〕板を多く生産するための挽き方で、丸太の半径に平行に鋸を入れる。
- (3) 曲がりの大きな丸太の製材において、曲がりの方向に平行に鋸を入れる方法を〔 ③ 〕挽きという。この方法では、幅は狭くなるが長尺の製材品を生産することができる。
- (4) 細りの大きな(末元口径の差が大きな)丸太の製材において、丸太の材面と平行に鋸を入れる方法を〔 ④ 〕挽きという。この方法では、製材品の目切れは少なくなるが、丸太の中心部分が端材となるなど作業が複雑になる。
- (5) 割れの大きな丸太の製材においては、割れに対して鋸を〔 ⑤ 〕に入れる。

ア：桎目 イ：板目 ウ：わく エ：だら オ：さや カ：のし
キ：平行 ク：直角 ケ：中心定規 コ：側面定規

問3 以下の文は、木材のバイオマスエネルギー利用について述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

戦後の復興期に木材の需要は急速に増大するなか、木材はエネルギー源として現在よりも広く利用されており、昭和30（1955）年には木材需要の約3割が薪や〔 ① 〕等として日常的に利用されていた。石油やガスへの燃料転換などにより木材の薪や〔 ① 〕としての利用は減少の一途をたどってきた。このような中、近年の二酸化炭素排出量削減やネット・ゼロに関連する施策や社会的ニーズの高まりを受け、再生可能エネルギーの一つとして、〔 ② 〕や〔 ③ 〕などの木質バイオマスが再び注目され、大型のバイオマス発電所等の燃料としても使用されている。現在、燃料材として使用されている〔 ② 〕の原料の多くは国産材であるが、その一方で〔 ③ 〕の多くは海外から輸入されている。木材からはこのほかに、石油系の輸送用燃料の代替となる〔 ④ 〕や〔 ⑤ 〕を製造することができる。木材の主成分であるセルロースは酸や酵素で加水分解することでグルコースに分解され、そのグルコースを酵母で分解することを通じて、ガソリンと混合することで自動車燃料としての利用が進められている〔 ④ 〕を製造することができる。〔 ④ 〕を化学的に処理することでバイオナフサや〔 ⑤ 〕を製造することができる。

ア：持続可能な航空燃料(SAF)	イ：木材チップ	ウ：黒液
エ：バイオエタノール	オ：木炭	カ：コークス
キ：練炭	ク：木ガス	ケ：オガラライト
		コ：木質ペレット

分野：

林	産
---	---

問4 以下の、我が国で生産・消費されるきのこに関連する文章を読み、文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

「種苗法」に基づく品種登録制度において、品種登録の対象となるきのこ類は、いずれも分類学上、〔 ① 〕に属し、また、それらの腐朽型は半数以上が〔 ② 〕である。その中でも、食品関連事業者が生鮮食品として、しいたけを販売する場合に関しては、食品表示基準により「名称」と「原産地」に加え「〔 ③ 〕」を表示することが義務づけられており、また、令和4（2022）年3月30日からは「原産地」として〔 ④ 〕を表示することが義務づけられている。例えば、しいたけの菌床をA国から輸入し、収穫は国内のB県で行った場合、「原産地」として表示する具体的な地名は〔 ⑤ 〕となる。

ア：子嚢菌類 イ：担子菌類 ウ：接合菌類 エ：菌根菌 オ：褐色腐朽菌
カ：白色腐朽菌 キ：栽培地 ク：採取地 ケ：植菌地 コ：A国
サ：B県 シ：栽培方法 ス：収穫方法

分野：

林	産
---	---

問5 以下の文は、きのこ類の鮮度保持技術に関する基本的な見解を述べたものである。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

収穫によって培地・ほだ木から栄養補給を絶たれた子実体（きのこ）は、生命を維持していくために、子実体（きのこ）中に蓄えられた糖アルコール等の呼吸基質を主に〔 ① 〕や〔 ② 〕に分解していく。このため、呼吸作用と鮮度保持には密接な関係があり、呼吸作用は一定温度までは〔 ③ 〕になるほど盛んになり、〔 ④ 〕に近いほど抑えられる。このため、基本的には〔 ④ 〕に達しない限り、温度が〔 ⑤ 〕ほど収穫物の品質が長く維持される。

ア：酸素 イ：二酸化炭素 ウ：水 エ：高温 オ：沸点
カ：凍結点 キ：低温 ク：高い ケ：低い コ：蒸散

問6 以下の各文は、特用林産物について述べたものである。各文のうち正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 漆は、樹木であるウルシから採取された樹液と樹脂の混合物を精製した塗料で、食器、工芸品、建造物等の塗装や接着に用いられてきた。平成 26（2014）年度に文化庁が国宝や重要文化財建造物の保存修理に原則として国産漆を使用する方針としたことを背景に、各産地は漆の生産振興に力を入れており、近年では滋賀県や奈良県などの主要産地を中心にウルシ林の造成・整備等が進められている。
- ② 多孔質である木炭は燃料としての利用以外にも浄水施設のろ過剤や消臭剤としての利用のほか、近年では、土壌改良材として農地に施用する「バイオ炭」が注目されている。バイオ炭の農地施用は難分解性の炭素を土壌に貯留する効果がある。
- ③ 木炭は、その原材料、製造方法や形状等の違いにより区分される。400～700℃前後で炭化される黒炭は炭質が柔らかく、着火が容易であるため、家庭用の燃料や暖房用等に用いられる。800℃以上で炭化される白炭は着火すれば、炭質が均一で安定した火力を長時間にわたって得られる。白炭は備長炭に代表される。
- ④ 販売向けの薪については、石油やガスへの燃料転換等により生産量が減少傾向で推移してきたが、平成 19（2007）年以降、ピザ窯やパン窯用としての利用や、アウトドア需要等を背景とした薪の需要増加を受け、生産量も増加傾向で推移している。薪の価格については、生産量が増加したことから近年低下している。
- ⑤ 管理放棄された竹林では、稈密度は枯死稈も含めると 10,000 本/ha 以上となる場合が多く、適正に管理するためには、これより密度を下げる必要がある。たけのこ生産のみを目的とする場合には 2,000～3,000 本/ha、たけのこ生産に主に農業利用される竹材生産を組み合わせる場合には 4,000～5,000 本/ha 程度の密度で管理する。

分野： **森 林 経 営**

〔注〕この問題は、専門（択一式）において「森林経営」を選択した場合に選択して下さい。
他の分野を選択した場合、この問題を選択・解答しても、無効となりますので、注意
して下さい。選択する場合は、解答用紙左上の「森林経営」の欄に○印をつけて下さい。

次の A（林業経営）、B（森林機能保全）の二つの課題のうち、いずれか一つを選択し、
解答しなさい。字数の合計は 1,200 字以内とする。

分野：森林経営
課題：A（林業経営）

森林の有する公益的機能の発揮や森林資源の持続的な利用を確保していくためには、適切な伐採と再生林を着実に進めていくこと等、持続可能な森林経営の一層の推進が必要である。

持続可能な森林経営に係る現状と課題、推進に向けた取組について、以下の手順で検討しなさい。

（１）あなたの地域における森林資源の状況及び林業の現状について記述しなさい。

（２）あなたの地域における持続可能な森林経営に向けた課題について記述しなさい。

（３）上記（１）と（２）を踏まえ、あなたの地域において、今後どのような方針で持続可能な森林経営を進めるべきか。また、その際の普及指導について、どのような取組を行っていくべきか、あなたの考えを記述しなさい。

分野： **森 林 経 営**

分野：森林経営

課題：B（森林機能保全）

近年、気候変動の影響により短時間強雨の年間発生回数が増加し、線状降水帯の発生等による大雨の激化・頻発化等に伴い、各地で激甚な山地災害が発生している。また、我が国の人工林は約6割が本格的な利用期を迎えている一方で、主伐収入等で造林費用を賄えないことなどから再造林が進んでいないことや、間伐等の手入れの遅れにより、森林の有する山地災害防止機能や土壌保全機能が低下することが課題として懸念されている。このような背景のもと、山地災害の防止・軽減をはじめとする気候変動への適応と、持続可能な森林経営を両立させ、森林の有する多面的機能を適切に発揮させるための森林整備・保全の在り方について、以下の手順で検討しなさい。

- （１）あなたの地域において、豪雨時に発生することが想定される山地災害の形態を２つ以上挙げ、各々について、森林のどのような状態等が、どのように山地災害の発生につながるかを含めて具体的に記述しなさい。
- （２）前問（１）で挙げた山地災害の形態から１つを選び、そのリスクを軽減し、森林の山地災害防止・軽減機能を長期的に維持・発揮させるために、森林整備や施業において取り組むべき技術的な課題を示し、それに対する留意点を記述しなさい。
- （３）前問（２）の課題解決に向け、あなたの地域において、今後どのような普及指導が効果的かを具体的に記述しなさい。記述に際しては、デジタル技術の活用や各種支援制度など多角的な視点を考慮し、地域の特色や実現性に即して書くこと。

分野：施業技術

(注) この問題は、専門(択一式)において「施業技術」を選択した場合に選択して下さい。
他の分野を選択した場合、この問題を選択・解答しても、無効となりますので、注意して下さい。選択する場合は、解答用紙左上の「施業技術」の欄に○印をつけて下さい。

次の A (造林)、B (森林保護)、C (林業機械) の三つの課題のうち、いずれか一つを選択し、解答しなさい。 字数の合計は 1,200 字以内とする。

分野：施業技術

課題：A (造林)

生物多様性の確保は、気候変動の問題と並ぶ地球規模の課題として認識されており、一体的に取り組むことが必要となっている。2022 (令和 4) 年 12 月に COP15 で採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の中で、2030 (令和 12) 年までに、生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急の行動をとるとの目標が掲げられた。この考え方は、2021 (令和 3) 年の G7 の合意文書において「ネイチャーポジティブ(自然再興)」と呼ばれている。我が国においては、令和 5 (2023) 年 3 月に、「生物多様性国家戦略 2023-2030」を閣議決定し、農林水産省においても、「農林水産省生物多様性戦略」を改定し、生物多様性保全を重視した農林水産業を推進することとしている。

令和 3 (2021) 年 6 月に閣議決定された森林・林業基本計画においても、全ての森林は多種多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、具体的な施策の推進が明記されている。国有林野においては、生物多様性の保全を図るため、国有林野事業として「保護林」や「緑の回廊」を設定し、モニタリング調査等を通じて適切な保護・管理に取り組んでいる。

そこで、あなたの地域で「生物多様性の保全に関連する森林・林業分野の取組」について指導するための方策について、以下の手順で検討しなさい。

- (1) 生物多様性の保全に関連する森林・林業分野の取組について知るところを、里山林(里山二次林)と人工林についてそれぞれ記述しなさい。
- (2) あなたの地域で里山林(里山二次林)と人工林において、生物多様性の保全に取り組む際の課題となる点について記述しなさい。
- (3) (2) で挙げた課題を踏まえ、あなたの地域の里山林(里山二次林)と人工林において、生物多様性保全の取組を進めていくためにはどのような方策が考えられるか、あなたの考えを具体的に記述しなさい。

分野：施 業 技 術

分野：施業技術
課題：B（森林保護）

シカ等の野生鳥獣や松くい虫等の病害虫による森林被害は、森林資源の損失にとどまらず、森林の公益的機能の低下、森林所有者の林業経営意欲の喪失につながります。このため、野生鳥獣や病害虫による森林被害対策を総合的に実施していくことが大変重要となっています。

これらのことを踏まえ、野生鳥獣や病害虫による森林被害について以下の問いに答えなさい。

- (1) あなたの地域で問題となっている野生鳥獣もしくは病害虫による森林被害の例を1つ挙げ、被害の対象となる主な樹種の被害状況や被害の動向を記述しなさい（あなたの地域で問題となっている野生鳥獣や病害虫による森林被害がない場合は、全国的に問題となっている野生鳥獣もしくは病害虫による森林被害について記述しなさい）。
- (2) 上記（1）で挙げた野生鳥獣や病害虫による森林被害について、あなたの地域で現在実施されている被害対策の内容及びその被害対策を推進する上での課題を具体的に記述しなさい（上記（1）で全国的に問題となっている森林被害について記述した場合は、全国的に実施されている被害対策の内容及びその被害対策を推進する上での課題を具体的に記述しなさい）。
- (3) 上記（2）で述べた課題を解決するため、具体的にどのような普及指導活動を進めるべきか、どのような改善策が必要か、あなたの考えを具体的に記述しなさい。

分野：施業技術

分野：施業技術
課題：C（林業機械）

近年、我が国の人工林は利用期を迎え、主伐・再造林の推進による森林資源の循環利用が求められている。また、国産材の安定供給や林業経営の持続的な発展のためには、地域の森林条件に応じた効率的かつ安全な木材の伐採搬出が重要となっている。

そこで、主伐の拡大に伴う木材の伐採搬出について、次の手順で考えを記述しなさい。

- （１） 我が国の森林における地形条件と、それに応じた木材の伐採搬出システムの特徴について整理して記述しなさい。
- （２）（１）を踏まえ、森林資源及び作業条件の変化に伴い想定される課題について記述しなさい。
- （３）（２）で述べた課題を解決するため、あなたの地域の実情を踏まえた普及指導活動について、考えを記述しなさい。

分野：林産

〔注〕この問題は、専門（択一式）において「林産」を選択した場合に選択して下さい。
他の分野を選択した場合、この問題を選択・解答しても、無効となりますので、注意
して下さい。選択する場合は、解答用紙左上の「林産」の欄に○印をつけて下さい。

次の A（林産）、B（特用林産）の二つの課題のうち、いずれか一つを選択し、解答しな
さい。字数の合計は 1,200 字以内とする。

分野：林産
課題：A（林産）

樹木には、二酸化炭素を吸収・貯蔵する働きがあり、森林から搬出された木材を建築物等に利用することにより、炭素を長期的に貯蔵することができる。さらに、木材利用の意義としては、地球温暖化防止以外にも、循環型社会の形成、森林の有する多面的機能の発揮、地域経済の活性化に貢献することが挙げられる。これらの木材利用の意義は、令和 3（2021）年に施行された「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」に規定されるとともに、地球温暖化対策計画（令和 7（2025）年 2 月閣議決定）等にも反映されている。

このような中、我が国における国産材供給量は、平成 14（2002）年の 1,692 万 m³を底として、森林資源の充実や合板原料としてのスギ等の国産材利用の増加、木質バイオマス発電施設での燃料材利用の増加等を背景に増加傾向で推移してきた。令和 6（2024）年の国産材供給量は、全体で前年比 1.4%増の 3,481 万 m³となっており、このうち、製材用材と合板用材を合わせた建築用材等は前年比 1.7% 減の 1,590 万 m³となっている。

他方で、我が国の令和 6（2024）年の木材需要量は、燃料材や建築用材等の需要が増加したことにより、前年比 2.5%増の 8,187 万 m³となった。

以上のことを踏まえ、あなたの地域における木材産業や木材利用について、あなたの意見を記述しなさい。

（1）あなたの地域において、木材がどのように利用されているか、木材産業及び木材利用について、製材工場や合板工場等の木材需要も含め現状を記述しなさい。

（2）あなたの地域における国産材利用を拡大するための課題について、（1）で記述した現状も踏まえて、整理しなさい。

（3）（2）で掲げた課題を解決するために、あなたの地域でどのような普及指導活動を行えばよいか、あなたの考えを具体的に記述しなさい。

分野：林 産

分野：林 産
課題：B（特用林産）

「特用林産物」とは、一般に用いられる木材を除いた森林原野を起源とする生産物の総称であり、林業産出額の約4割を占めるなど地域経済の活性化や雇用の確保に大きな役割を果たしている。

令和6（2024）年の特用林産物の産出額は前年比5.8%増の2,437億円であり、このうち「栽培きのこ類生産」が全体の9割以上を占める2,323億円、生産量は約43万トンとなっている。

きのこ類については、「食料・農業・農村基本計画」（令和7（2025）年4月閣議決定）において、令和12（2030）年までに生産量47万トンとする食料供給のKPIを設定しているところである。

これらのことを踏まえ、以下の手順で検討しなさい。

（1）あなたの都道府県において生産される主要なきのこ類の具体的な品目を一つ挙げて、あなたの都道府県での生産（生産額、生産量、生産者数、生産資材の調達状況等）・流通（集荷の方法、価格等）の現状を記述しなさい。

（2）（1）で挙げた品目の生産振興、消費拡大、生産者の所得や雇用の確保、生産等への地域産木材の活用、当該品目を活用した地域の活性化といった事項を推進する上で考えられる課題を、理由とともに3点記述しなさい（複数の事項についての課題抽出可）。

（3）上記（2）で述べた3点の課題を解決するため、どのような普及指導活動を行えばよいか、課題ごとに、あなたの考えを具体的に記述しなさい。

令和8年度 林業普及指導員資格試験 解答
林業一般・地域森林総合監理区分共通（マークシート式）

一般基礎・択一式

50問×各2点＝100点満点

問 1					問 2				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
イ	ク	コ	シ	タ	ウ	カ	キ	サ	ス

問 3					問 4				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
イ	ア	イ	ア	ア	ウ	イ	オ	ア	ア

問 5					問 6				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
ア	イ	ケ	コ	ス	イ	ア	エ	イ	ウ

問 7					問 8				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
イ	カ	コ	サ	ケ	イ	サ	ク	ソ	オ

問 9					問10				
①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
ア	イ	エ	ウ	イ	シ	イ	ソ	オ	サ

令和8年度 林業普及指導員資格試験 解答

林業一般・地域森林総合監理区分共通（マークシート式）

専門・択一式 【森林経営】

30問×各2点＝60点満点

問1	①	②	③	④	⑤
	イ	力	ケ	タ	チ

問2	①	②	③	④	⑤
	ウ	力	ク	サ	ス

問3	①	②	③	④	⑤
	ア	力	ク	シ	セ

問4	①	②	③	④	⑤
	イ	ウ	力	ク	シ

問5	①	②	③	④	⑤
	サ	オ	ソ	ケ	セ

問6	①	②	③	④	⑤
	キ	力	ケ	セ	ス

令和8年度 林業普及指導員資格試験 解答

林業一般・地域森林総合監理区分共通（マークシート式）

専門・択一式 【施業技術】

30問×各2点＝60点満点

問1	①	②	③	④	⑤
	ア	オ	ケ	サ	ソ

問2	①	②	③	④	⑤
	エ	カ	コ	セ	ト

問3	①	②	③	④	⑤
	ア	イ	カ	ア	ウ

問4	①	②	③	④	⑤
	ア	イ	イ	ア	イ

問5	①	②	③	④	⑤
	ア	ア	ア	イ	イ

問6	①	②	③	④	⑤
	カ	ウ	ケ	ス	チ

令和8年度 林業普及指導員資格試験 解答

林業一般・地域森林総合監理区分共通（マークシート式）

専門・択一式 【林 産】

30問×各2点＝60点満点

問1	①	②	③	④	⑤
	エ	ア	キ	イ	オ

問2	①	②	③	④	⑤
	ウ	ア	オ	コ	キ

問3	①	②	③	④	⑤
	オ	イ	コ	エ	ア

問4	①	②	③	④	⑤
	イ	カ	シ	ケ	コ

問5	①	②	③	④	⑤
	イまたはウ	ウまたはイ	エ	カ	ケ

問6	①	②	③	④	⑤
	イ	ア	ア	イ	ア

問1 以下の文は、「令和7年度 森林総合監理士（フォレスター）基本テキスト」の森林総合監理士に求められる能力・活動体制などに関する記述である。文中の〔 〕に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

森林計画制度において、都道府県の策定する〔 ① 〕に適合して市町村森林整備計画を作成することとなっていることを踏まえ、市町村への行政上の指導は都道府県の森林総合監理士（フォレスター）が主体的に行う。国有林の森林総合監理士は、国有林が蓄積してきた施業技術や路網作設技術、木材販売に関する知見や情報を基に、市町村の森林・林業行政等に対する〔 ② 〕を行う。

また、地域の経験豊富な民間の技術者や都道府県等の〔 ③ 〕も森林総合監理士として登録し、活動することが期待されている。民間の森林総合監理士が市町村と〔 ④ 〕等を締結し技術的支援等を行うことも増えてきている。

市町村森林整備計画の作成をはじめ、森林総合監理士の関わる活動内容は、本来、〔 ⑤ 〕に規定された市町村の業務である。このため自前の森林総合監理士を有しない市町村においては、森林・林業に関する担当者を明確にした上で、森林総合監理士等と連携して森林・林業行政を実施する仕組みをつくることが重要である。

ア：森づくりビジョン イ：相対契約 ウ：退職者 エ：行政指導
オ：森林経営プランナー カ：地域森林計画 キ：基本方針 ク：委託契約
ケ：森林・林業基本法 コ：指揮命令 サ：森林経営管理法 シ：森林法
ス：フォレストマネージャー セ：森林整備推進協定 ソ：技術支援

問2 森林総合監理士（フォレスター）には、「森林づくりの構想の作成」、「地域の合意形成」、「構想の実現」の3つの役割・活動内容がある。以下の各文は、これら3つの役割・活動内容について説明したものである。正しいものにはア、正しくないものにはイを、回答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 「地域の合意形成」として想定される具体的な活動内容は、市町村森林整備計画案についての説明会の開催や有識者への意見聴取等を通じ、関係者の関心を高めつつ、幅広い合意を形成していくことである。
- ② 「構想の実現」として想定される具体的な活動内容の1つは、森林資源の保続と木材生産を盛り込んだ森林経営計画案や伐採・造林届が市町村森林整備計画に照らして適切かどうか、実際に適切な施業が実施されているかどうかについて現地確認や指導を行うことである。
- ③ 「地域の合意形成」とは、公平・公正・中立的な立場から、地域の森林・林業関係者（森林所有者、森林組合、素材生産業者、木材加工業者、行政機関等）や地域住民及び、地域外の政治家や農業関係者の間で構想について合意形成を図ることである。
- ④ 「森林づくりの構想の作成」とは、地域の森林をどのように整備・保全していくのか、森林資源をどのように循環利用していくのかについて、社会経済的条件を優先しながら川上から川中までの総合的・長期的な視点に立った構想（マスタープラン）を描くことである。
- ⑤ 3つの役割・活動内容のプロセスは、10年間の計画である市町村森林整備計画を単に作成すれば済むものではなく、当面の10年間になすべきことを計画し、課題の把握とその対策を先手先手で考えながら計画を実行し、5年間に実行した事項をレビューした上で、次の計画を改善していく継続的な取組が必要である。

問3 以下の各文は、平成 29(2017)年から令和元(2019)年に発生した全国の林業労働災害の状況を林野庁が分析した際の主な結果である。各文の内容について、正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 作業別の林業死亡災害の発生件数では、集材作業時の死亡災害が7割を占める
- ② かかり木が関係する死亡災害が多い
- ③ 経験年数別では、経験の少ない従事者の死亡災害の発生件数が多い
- ④ 年齢別では、高齢者の死亡災害の発生件数が多い
- ⑤ 経営規模別では、大規模な事業体での死傷災害の発生件数が多い

問4 以下の各文は、「令和7年度 森林総合監理士（フォレスター）基本テキスト」におけるKJ法の説明である。正しいものにはア、正しくないものにはイを、回答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① KJ法は、発案者であるKerry James氏のイニシャルから名付けられた。小グループのコミュニケーションの手法であり、同時にグループとしての思考整理法である。複数の人が集まり、話し合いのテーマについての課題や問題点などがまだ絞り込めていない段階では特に有効な方法である。
- ② KJ法では、話し合いのテーマに沿って、カードに発想（アイデア、コメント、考え方、課題、解決方法など）を書き出す。カードを作成する作業は、1人で行う。頭に浮かんだ分だけ何枚書いても良い。思いついた発想を忘れる前に記載する必要があるので、1枚のカードに複数の発想を書いても良い。
- ③ KJ法では、付箋紙など、裏に付け剥がし可能な糊のついたカードが良く使われる。グループのメンバーでテーブルを囲んで模造紙の上にカードを貼りながら議論を進める方法と、壁面に模造紙を貼ってそこにカードを貼って議論を進める方法がある。
- ④ 同じような意見のカードをまとめ、いくつかのカードグループを作り、それぞれグループ名を付ける。カードグループ間の関係を考え、それらの関係性を模造紙に書き、カードや模造紙を眺めながら、意見交換を行う。
- ⑤ KJ法とは、グループのメンバーの考えていることを「見える化」する作業である。グループでは「見えたもの」をベースにすることで、有効な意見交換を図り合意形成を容易にさせるという効力がある。

問1 以下の各文は、我が国の森林の現状や森づくりの理念などについて述べたものである。説明文のうち、正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 日本では昭和20年代後半から造林活動が進められ、高度経済成長期の拡大造林によって里山二次林や奥山の針葉樹人工林への転換が進んだ。現在まで残されている人工林はおおむね手入れが行き届いているが、人工林全体で見ると面積・蓄積とも減少傾向にあり、森林の消失が危惧されている。
- ② 人工林の目標林型は生産目標から決まる。生産目標により主林木の径級、形質が異なり、主伐時期が異なってくる。人工林の主伐時期は、大径材を生産し、木材生産機能以外の様々な機能の発揮という側面から、これまで、80年程度の長伐期が標準的な伐期とされていた。しかし、令和に入り、木材生産機能を最大限発揮させるという意味から、より短い40～50年という短伐期施業へ移行する傾向が見られる。
- ③ 林分収穫表には、各地域における標準的な管理をした場合の林分当たりの収穫量の目安が林齢ごとに示されており、おおまかな資源把握に役立つ。一方、システム収穫表は、現実林分の調査データを初期値として入力し、その森林が育つ様子をコンピュータ上でシミュレートするものであり、さまざまな間伐を試し、いつ、どんな間伐を行えば良いのか、主伐をいつ行えば良いかを計画する際に役立つ。
- ④ 人工林の更新にあたって早期の成林を目指す場合には、特定苗木の活用も重要である。特定苗木とは、成長に優れるエリートツリーなどの中から、同様の環境下の対照個体と比較して成長量が2.0倍以上という基準を満たすものを林野庁長官が特定母樹に指定しており、この特定母樹に由来する苗木のことを指す。
- ⑤ 我が国の林野火災の原因は落雷による発火が最も多く、気候変動による雷雨の増加にともなって近年増える傾向にある。

問2 以下の各文は森林・林業の構想と市町村森林整備計画の作成について述べたものである。説明文のうち、正しいものにはア、正しくないものにはイを解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 市町村森林整備計画では、森林・林業基本計画で例示されている森林の有する機能のうち、保健・レクリエーション機能、文化機能、生物多様性保全機能（原生的な森林生態系など属地性があるもののみ）については、これらを1つのものとして取り扱い、保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域として設定することになっている。一方、水源涵養機能、山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能については、それぞれの機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域を設定することになっている。
- ② 市町村森林整備計画の計画事項は「森林法」で定められており、様式や記載要領は林野庁通知で示されている。その様式や記載要領はあくまで「ひな形」である。そのため、内容さえ盛り込まれていれば、各市町村が地域の特性に応じて写真やイラストを多用したり、独自の数値目標を掲げたりするなど、自由なスタイルで記載しても問題はない。
- ③ 森林や社会・経済的な状況は地域ごとに異なる。そのため、地域レベルでの森林・林業の「構想」（地域の森林・林業の目指すべき方向と一定時点での到達点をあらかじめ明らかにしたもの）は地域特定的な内容を個別に検討していく必要があり、地域における森林の特徴や地域の要望等を踏まえて、関係者間の合意に基づいた地域の森林・林業の目指すべき方向や目標を定める。構想においては、木材生産に限らず、多様な森林の利用方法が基本方針の内容となり得る。
- ④ 市町村森林整備計画で設定するゾーニングのうち「木材生産機能維持増進森林」は主に木材生産の潜在性に着目したものである。そのため、市町村森林整備計画においては、木材生産機能維持増進森林の区域を中心に、計画期間内に路網整備や施業集約化を推進していく区域として「路網整備等推進区域」を設定することとし、その区域を計画の概要図に図示することとしている。
- ⑤ 市町村森林整備計画で設定するゾーニングにおいて、「木材生産機能維持増進森林」のうち特に自然的条件及び社会的条件が良い区域は「特に効率的な施業が可能な森林」として位置づけることができる。この区域では効率的かつ積極的に森林施業・林業生産を進めていくこととされているため、植栽による更新が例外なく義務付けられている。

問3 以下の各文は市町村森林整備計画の実行監理について述べたものである。説明文のうち、正しいものにはア、正しくないものにはイを解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 森林経営計画の認定審査において、市町村長は「森林法」や森林法施行規則に基づく実施基準への適合性を確認する。この際、当該市町村が市町村森林整備計画において独自の森林施業等の基準やゾーニングを定めている場合、申請された経営計画がその独自の内容に適合しているかどうか審査の対象となる。
- ② 平成29(2017)年5月に「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」(通称「クリーンウッド法」)が施行され、さらに令和7(2025)年4月には、改正クリーンウッド法が施行された。令和7(2025)年の改正では、政府調達のみならず、民間需要においても全ての事業者が合法伐採木材等を利用する努力義務が追加された。
- ③ 「森林法」に基づく森林の土地の所有者届出制度は、売買、相続、贈与など理由を問わず、新たに森林の土地を取得した者に義務付けられる。この制度は、「国土利用計画法」に基づく届出と同様に、一定面積以上の土地取引が行われた場合にのみ、届出が必要となる。
- ④ 林地台帳は市町村が所有者や境界の情報を一元的に取りまとめて作成し、あくまで伐採造林届出制度における届出者の確認や、無届伐採等に対する森林所有者への指導に活用するものである。森林整備の担い手である森林組合や林業事業体が、森林施業の集約化の取組のために林地台帳に記載された情報を活用することは想定していない。
- ⑤ 令和8(2026)年2月の森林法施行規則等の改正により、森林の土地の所有者届出書の届出事項及び市町村が管理する林地台帳の記載事項に、所有者の国籍等が追加された。このうち、届出書の改正は令和8(2026)年4月、林地台帳の改正は令和9(2027)年4月にそれぞれ施行されることとなり、森林の土地の実態を円滑かつ正確に把握することが可能となる。

問 4 以下の各文は、令和 7（2025）年に改正された「森林経営管理法」（令和 7 年 5 月成立、令和 8 年 4 月施行、以下、改正「森林経営管理法」という。）のもとでの森林経営管理制度に関連する事項について述べたものである。正しいものにはア、正しくないものにはイを、解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 市町村の森林政策における人員不足や、林業経営に適した森林における集積・集約化された面積が低位であるなどの課題を踏まえ、改正「森林経営管理法」では、市町村の事務負担の軽減と、地域の関係者の連携を強化する新たな仕組みとしての集約化構想制度の創設の 2 点を柱とした改善が図られている。
- ② 集約化構想は、地域の関係者が協議を行い、対象とする森林の目指すべき将来像について定めるものである。集約化構想には、集約化のために経営管理実施権の設定等をすべき森林や経営管理実施権の受け手である構想適合事業者等を定めることになるので、その後の権利集積配分一括計画の作成にあたっては、市町村は、構想適合事業者と連携して、具体的な施業提案などを森林所有者等に示すことができる。
- ③ 改正「森林経営管理法」では、共有林において 1/2 超の持分を有する森林所有者の同意により、間伐等経営管理権を設定できることとなった。当該権利に基づき実施可能な経営管理の内容は、切り捨て間伐と保育であり、間伐材の販売を含む収入間伐は認められない。
- ④ 改正「森林経営管理法」では、森林所有者が不明の場合に、探索、公告等の一定の手続きを経ることで、市町村に経営管理権を設定することが出来る特例が措置されている。このうち、共有者不明森林の特例を活用するためには、戸籍謄本等により不明な共有者を探索し、経営管理権集積計画の案の 2 カ月の公告を経た上で、都道府県知事による裁定が必要である。
- ⑤ 経営管理実施権配分計画を定める際に、経営管理の内容に主伐が含まれている場合は、経営管理実施権の存続期間を 15 年以上とする必要がある。これは、主伐後の成林に一定の目途がつくようにするためである。

問5 以下の文は、提案型集約化施業について述べたものである。文中の〔 〕内に
入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄
にマークしなさい。

森林施業プランナーが中心となって取り組んでいる提案型集約化施業とは、「複数の森
林所有者に対し〔 ① 〕や、施業実施に必要な経費および木材の販売額などの事業を実
施した場合の〔 ② 〕を明らかにした見積り（森林施業提案書）を提示して、森林所有
者の施業に対する関心を高め、森林経営受託契約等を締結しつつ、集約化して施業を行う
取組」とされています。

森林施業プランナーは、森林総合監理士（フォレスター）と連携して、〔 ③ 〕の中
で示された森林づくりの方向性などを踏まえ、〔 ④ 〕の作成・実行を通じて持続的な
森林経営を推進していくことが期待されています。

地域によって、森林所有者の所有規模や所有山林への関心の度合い、境界の確定状況、
路網の整備状況など、提案型集約化施業を取り巻く課題は大きく異なります。森林施業プ
ランナーはこのような現場ごとの状況に対応しながら、〔 ⑤ 〕を行います。

ア：地域管理経営計画

イ：地域森林計画

ウ：森林経営計画

エ：全国森林計画

オ：施業評価基準

カ：施業の集約化

キ：経営管理権集積計画

ク：施業内容

ケ：運営費

コ：環境負荷

サ：施業の分散化

シ：市町村森林整備計画

ス：収支

セ：施業の簡素化

問6 以下の文は路網整備を進める上で重要な因子となる作業システムについて述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

作業システムは集材機やタワーヤードを使用する架線系とグラップル等による車両系に大別されます。車両系は比較的高い路網密度が要求され、架線系は〔 ① 〕など路網開設が限られる作業地で採用されています。

作業システムと路網は、相互に最適な配置やシステムの選択に影響し合います。森林経営計画に記入され予定される路網は、〔 ② 〕の資源状況や施業を勘案して決める必要があります。作業システムは、通常採用している作業システムを踏まえ、〔 ② 〕を見据えてより効率の良い作業システムに誘導していく視点が求められます。

現地に応じた作業システムを選択する際、立木の状況や林地傾斜、路網の整備状況などの林地状況だけでなく、作業に伴い発生する可能性のあるトラブルとその対応を考慮して作業を計画する必要があります。また、新たな作業システムの導入に当たっては、人、機械、作業条件を踏まえ、路網新設の可能性、伐採対象木の樹種やサイズ、〔 ③ 〕の配置、トラック等運材方法の組み合わせによる収支シミュレーションを行います。

作業システムを改善して生産性を向上させるために、産業界の生産プロセスの改善で広く使われている〔 ④ 〕を林業にも適用することが有効です。工程ごとの生産状況を把握した上で、制約（ボトルネック）となっている工程を全体最適で改善していくことになります。1人当たりの処理能力が大きい機械を中心にセットすることを考えるのではなく、処理能力が最も〔 ⑤ 〕ボトルネックになっている工程の能力を引き出すことができるよう改善して全体の流れを良くするという考え方をします。

ア：移動距離 イ：過去 ウ：TOC 理論 エ：中間土場 オ：将来 カ：SCP 理論
キ：伐倒方法 ク：低く ケ：緩傾斜地 コ：土場 サ：ABC 理論 シ：現在
ス：急傾斜地 セ：高く ソ：待避場

問7 以下の各文は林道、森林作業道における排水施設の留意点について述べたものである。説明文のうち、正しいものにはア、正しくないものにはイを解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- ① 林道ののり面、路体、路肩の決壊や崩壊等は、表面水や地下水等の水によるものがほとんどである。このため林道外から流入する地表水等の排水計画や実際の路面水等の管理は、調査・測量・設計、施工、維持管理の各段階において適切に実施することが極めて重要である。
- ② 自動車道が溪流や沢等を横断する箇所は、降雨強度等に基づく雨水流出量、流下水の洪水流や土砂流出等の態様、流下水に混入する石礫の径等を適切に把握し、流下水の流量や態様に応じた通水断面、材料及び型式の横断排水施設を選定するものとする。
- ③ 流末処理は、地盤侵食等の生じにくい箇所まで導水して安全な状態で行うことを基本とするが、基礎地盤の状況等に応じて必要な場合には、水叩き等による侵食防止対策を講じるものとする。
- ④ 林業専用道では必ず等間隔に横断排水工を設置し、排水を行う。側溝は、湧水等による常水のある場合や地形条件から路外からの流入水が生じやすい場合、路面侵食を防止する必要がある区間に採用する。
- ⑤ 森林作業道が小渓流を横断する場合、最初にコルゲートパイプ等の暗きよの設置を検討し、必要に応じて、丸太や岩石、コンクリート等を用いて、呑口の保護を行う。

問8 以下の文は、木材流通・販売に関する事項の考え方について述べたものである。文中の〔 〕内に入る最も適切な語句又は数字を下の語群から選び、その記号（カタカナ）を解答用紙の該当欄にマークしなさい。

- (1) 国産材を利用することは、森林資源の循環利用に貢献することとなり、我が国に課せられた命題である〔 ① 〕の推進に繋がります。さらに、国産材の利用が進むことにより山元へ収益が還元されれば地域の林業生産活動および木材産業が活性化し、多面的な機能を発揮する健全な森林が育成されるとともに地域の活性化にも繋がることとなります。
- (2) 令和3（2021）年に策定された森林・林業基本計画において、令和元（2019）年の実績値3,100万 m^3 に対する令和7（2025）年の木材供給量の目標は、4,000万 m^3 に設定された。これに対して、令和8（2026）年に策定された森林・林業基本計画では、令和6（2024）年の実績値が3,500万 m^3 となっていることから、目標4,000万 m^3 の87.5%まで増加した。同様に、令和3（2021）年の森林・林業基本計画の用途別の利用量の目標のうち、製材用材の令和7（2025）年目標1,700万 m^3 に対する、令和6（2024）年の達成状況は〔 ② 〕%であった。この目標を達成するためには、製材用材の需要量と密接な関係にある木造住宅に使われている国産材の割合を高めていく必要がある。ただし、我が国の木造住宅の着工戸数は、昭和48（1973）年に112万戸を記録した後、減少傾向にあり、令和6（2024）年には約〔 ③ 〕万戸となっている。この水準を引き上げることは容易でないことから、住宅以外のビルや商業施設等の非住宅建築物を国産材によって木造化することで、製材用材供給を拡大することが必要である。
- (3) 需要動向を踏まえた素材流通としては、(a) ロットをまとめて大規模工場や連携している中小規模工場に納材する、(b)〔 ④ 〕の生産・細かなニーズに対応した柔軟な製品供給を行う中小規模工場に対して納材するなど、納材先により流通の特徴も異なり、大規模工場へ運送する場合は、ロットをまとめることにより物流を効率的にすることができる。また、山土場から丸太を効率的に輸送するためには、運送距離（山土場～中間土場等、中間土場等～工場のそれぞれの距離）、〔 ⑤ 〕、山に入れるトラックのサイズ、1日のトラックの回転数に留意して検討する必要がある。

ア：森林資源の厳格な保護 イ：脱炭素社会の形成

ウ：低価格を最優先とする経済競争力の強化 エ：77 オ：82 カ：87

キ：45 ク：57 ケ：79 コ：大径材 サ：安い単価の地域材製品

シ：高い単価の地域材製品 ス：輸送する丸太の規格 セ：積み替えの有無

記述式Aには問1～問3の中から1つを、記述式Bには問4～問6の中から1つを、記述式Cには問1～問6の中から記述式Aと記述式Bで選択した問以外から1つを選択して解答しなさい。（計3問を選択）

【問1】

森林において生物多様性を保全する意義について、森林がもたらす生態系サービスの内容をなるべく具体的かつ網羅的に挙げながら説明しなさい。その際、森林の生態系サービスに対する評価をめぐる近年の社会的動向も記載すること。

【問2】

市町村森林整備計画の実行監理として重要な制度のうち、「伐採及び伐採後の造林の届出等の制度」について、以下の間に簡潔に答えなさい。

- (1) 伐採及び伐採後の造林の届出書（伐採造林届出書）の市町村長への提出について、届出の対象者、届出の対象となる森林、届出の対象となる行為、提出期間を記述しなさい。
- (2) 伐採造林届出書に関する市町村の対応について下記①及び②に答えなさい。
 - ①伐採造林届出書が提出された際の市町村の対応について、「添付書類」「伐採造林届出書の内容」「指導」「変更命令」のキーワードを用いて記述しなさい。
 - ②市町村長による伐採中止命令と造林命令はどのような場合に行うことができるか記述しなさい。
- (3) 伐採造林届出書で計画された施業の実施状況を確認するため、平成28(2016)年の「森林法」改正により新たに必要となった報告の名称は何か記述しなさい。また、当該報告について令和4(2022)年4月からどのような変更がなされたか記述しなさい。

【問3】

森林経営計画の策定に関し、次の2問に回答しなさい。

- (1) 森林計画においては、森林経営の受委託を推進することとされているが、その理由を、森林所有者が植栽や間伐など個別の施業を都度委託する場合との比較を交えて記述しなさい。
- (2) 市町村森林整備計画において「公益的機能別施業森林区域外」かつ「木材生産機能維持増進森林」にゾーニングされている計画の対象森林について、森林法施行規則に定められた施業実施基準に基づく、
 - ア 適正な林齢での主伐
 - イ 適正な伐採（主伐）の方法（規模）
 - ウ 適正な（主伐）伐採立木材積の内容をそれぞれ簡潔に記述しなさい。

【問 4】

森林総合監理士（フォレスター）は、地域の森林管理を進めるパートナーとして、認定森林施業プランナーと密接に連携することが期待される。そこで、森林施業プランナーが森林総合監理士と連携して提案型集約化施業を進めるにあたり、森林経営計画作成後、森林施業プランナーが中心となっていく施業提案の準備から施業完了までの具体的な手順について記述しなさい。なお、それぞれの手順で留意点や対応策があれば、それも交えて記述しなさい。

【問 5】

路網は、林道、森林作業道を効果的に組み合わせて整備していく必要があるもので、森林の多面的機能を持続的に発揮していくための森林施業に必要不可欠な基盤です。

戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎えた今、森林資源の循環利用を確立するためには路網を整備し、造林・保育作業や木材生産、木材輸送の効率化を図っていくことが必要ですが、路網整備において森林総合監理士が果たすべき役割について、地域の森林・林業や路網整備の観点を中心に簡潔に述べなさい。

【問 6】

違法伐採対策として、我が国の木材利用・流通に関して制定された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）と「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」（クリーンウッド法）について、以下を簡潔に説明しなさい。

1. グリーン購入法に基づく基本方針（2006 年版）に明記された内容と、クリーンウッド法に定められている内容について、「確認」、「証明」の用語を用い、かつ両用語の違いに注目して説明しなさい。
2. クリーンウッド法における「木材関連事業者」を、「木材等（同法が対象物品と定める木材と家具・紙等の物品）」の用語を用いて説明するとともに、「第 1 種登録木材関連事業者」（以下、第 1 種事業者）と「第 2 種登録木材関連事業者」（以下、第 2 種事業者）との違いを説明しなさい。また、「素材生産販売事業者」の特徴を、伐採のみを行う事業者はそれに該当しない理由とあわせて説明しなさい。
3. クリーンウッド法において、素材生産販売事業者に課せられている義務、第 1 種事業者に課せられている 5 つの義務、第 2 種事業者のみに課せられている 3 つの努力義務を説明しなさい。

令和 8 年度 林業普及指導員資格試験 解答

地域森林総合監理区分（マークシート式）

総合専門（適性）・択一式

20 問×各 2 点＝40 点満点

問 1	①	②	③	④	⑤
	カ	ソ	ウ	ク	シ

問 2	①	②	③	④	⑤
	ア	ア	イ	イ	ア

問 3	①	②	③	④	⑤
	イ	ア	ア	ア	イ

問 4	①	②	③	④	⑤
	イ	イ	ア	ア	ア

令和 8 年度 林業普及指導員資格試験 解答

地域森林総合監理区分（マークシート式）

総合専門（課題解決）・択一式

40 問 × 各 2 点 = 80 点満点

問 1	①	②	③	④	⑤
	イ	イ	ア	イ	イ

問 2	①	②	③	④	⑤
	ア	ア	ア	ア	イ

問 3	①	②	③	④	⑤
	ア	イ	イ	イ	ア

問 4	①	②	③	④	⑤
	ア	ア	イ	イ	ア

問 5	①	②	③	④	⑤
	ク	ス	シ	ウ	カ

問 6	①	②	③	④	⑤
	ス	オ	コ	ウ	ク

問 7	①	②	③	④	⑤
	ア	ア	ア	イ	イ

問 8	①	②	③	④	⑤
	イ	オ	キ	シ	セ